

## 平成 30 年度後期授業改善アンケート実施結果

### 1. 授業改善アンケートの概要

大阪産業大学で開講する授業を改善し、大学全体の教育の質を向上させることを目的として、平成 12 年度から学生に対する「授業改善のためのアンケート」を実施し、実施結果を担当教員にフィードバックするとともに大学の Web サイトに公表してきた。

平成 29 年 4 月より FD 活動に関する計画・立案は、教育支援委員会から教学マネジメント委員会の FD 部会へ移管され、所管部署が教育研究推進センターの教学推進課となった。昨年に引き続き、平成 30 年度の授業改善アンケートの計画や実施要領については FD 部会で立案し、教学マネジメント委員会にて承認を受けて、授業改善アンケートを実施した。平成 30 年度では、昨年と同様の実施方法で、さらなる教育の質の向上に向けて実施することになった。

- 1) 大学だけでなく、大学院でもアンケートを実施する
- 2) 教学マネジメント委員会 FD 部会で実施対象科目を選定する
- 3) 顕彰制度(大学のみ)を導入する

なお、実施対象科目は、さらなる改善が必要であるという観点から講義科目と言語科目が選定された。

### 2. 実施期間

後期：平成 30 年 11 月 30 日(金)～12 月 13 日(木)

実施期間については上述の 2 週間としたが、実施期間中に実施できなかった場合には期間外であってもアンケートを実施していただき、1 月 25 日現在で下述の実施率となっている。ただし、期間外のアンケート実施者については、顕彰制度対象外とした。

### 3. 実施方法

大学でのアンケートはマークシート用紙による回答とし、択一式で無記名、14 の質問項目および自由記述とした。このような実施方法で、全学部の学生を対象として実施した。

### 4. 実施科目数、実施率 (1/25 現在)

#### 1) 対象科目、実施科目の内訳 (実施科目数/対象科目数)

	後期				前期		比
	専任・特任	非常勤	計	実施率	計	実施率	実施率
大学	174/174	265/271	439/445	98.7%	471/471※	100%	1.3%減

※選定科目は、470 科目であるが、追加実施科目 1 科目を含む。

#### 2) 大学：言語科目、講義科目別、専任・特任および非常勤の実施科目内訳 (実施科目数/対象科目数)

	後期			前期		
	専任・特任	非常勤	計	専任・特任	非常勤	計
言語科目	10/10	125/129	135/139	13/13	129/129	142/142
講義科目	164/164	140/142	304/306	164/164	165/165	329/329
計	174/174	265/271	439/445	177/177	294/294	471/471
実施率	100%	97.8%	98.7%	100%	100%	100%

### 3) 大学：履修者数に対する回答率

回答率	後期			前期			比
	実施科目の履修者数(A)	回答者数(B)	回答率(B/A)%	実施科目の履修者数(A)	回答者数(B)	回答率%	
言語科目	3,098	2,052	66.2%	3,500	2,374	67.8%	1.6%減
講義科目	30,145	14,026	46.5%	33,013	16,517	50.0%	3.5%減
計	33,243	16,078	48.4%	36,513	18,891	51.7%	2.8%減

### 4) 大学：自由記述記入率

平成 30 年度からアンケート用紙に自由記述欄を設けた。

	回答入力件数(A)	自由記述入力数(B)	記入率(B/A)%
前期	18,817	3,482	18.5%
後期	15,700	2,495	15.9%

※自由記述のカウントは、「特になし」「なし」等の記入も含む。

## 5. 集計結果報告と公表

集計結果については、すべての担当教員にフィードバックした上で、所見書の提出を求め、さらに、大阪産業大学の Web サイトに集計結果と提出された所見書を公表することになっている。

## 6. 授業改善アンケートの結果

### 1) 実施科目数と実施率について

平成 30 年度前期に引き続き後期も大学および大学院において、1 教員 1 科目のアンケートをこれまでより厳格化して実施した。その結果、今回の平成 30 年度後期は大学 98.7%となった。専任・特任教員については、100%、非常勤講師については、97.8%と高い回答を得ることができた。大学における履修者に対するアンケート後期の回答率は、言語科目が 66.2%であるのに対し、講義科目は 46.5%と約半数の学生のアンケートしか回収することができなかった。前期と比べると言語科目 67.8%と 1.6%減、講義科目は 50.0%と 3.5%減となりいずれも回収率が減少した。今後、授業改善を推進していくためにも、アンケート回収率の向上の方策を検討する必要があることがわかった。

### 2) 個別の質問について (大学)

大学においては 14 の質問項目とし、いずれの質問項目も「そう思う」、「ややそう思う」、「どちらともいえない」、「あまりそう思わない」、「そう思わない」の 5 段階の中から一つを選ぶ択一式とした。回答結果について、14 の質問項目毎に、教員雇用形態別、専任教員職責別、専任教員所属学科別（全学教育機構の 3 センターを含む）、学生所属学科別、学年別、履修者数別及び科目区分別に整理した。5 段階の回答について、「そう思う」を 5 点、「そう思わない」を 1 点とし、5 点から 1 点の点数を配分して平均点を算出した。なお、詳細については別添の資料に示す。

教員雇用形態別では、専任・特任と非常勤との間ではすべての質問項目で顕著な差異は見られなかった。専任教員職責別では、14 の質問項目中 10 の質問項目で、講師が高い平均点となった。学年別では Q1 の出席状況を問う質問では、学年が進むと低い平均点となるが、14 の質問項目の 10 項目 (Q3~8,11~14) において 2 年生で一旦平均点が低くなり、その後 3 年生から平均点が高くなる傾向が見られた。履修者数別では、いずれの質問項目でも履修者数が 50 人以下の科目が高い平均点となった。また、科目区分別では、外国語系科目がいずれの質問項目でも高い平均点となった。

次にそれぞれの質問項目における専任教員所属学科別及び学生所属学科別の結果の概要を示す。

#### Q1「この授業によく出席していますか？」

全体として高い平均点であったが、アンケート回答率が全体で 48.4%であるため、学生全体の出席状況を示していない。専任教員所属学科別では、4.40～4.72 点の平均点であり、**教職教育センター**が 4.72 点、**都市創造工学科**が 4.70 点と高い平均点であったのに対し、経営学科が 4.40 点、商学科が 4.46 点と低い平均点であった。一方、学生所属学科別では、4.36～4.68 点の平均点であり、**都市創造工学科**が 4.68 点、**環境理工学科**が 4.67 点と高い平均点であったのに対し、国際経済学科が 4.36 点、経営学科が 4.40 点と低い平均点であった。

Q2「この授業の予習復習や関連する内容についての自己学習を行っていますか？」

この質問項目に対する回答は、(5)2 時間以上、(4)1～2 時間未満、(3)30 分～1 時間未満、(2)30 分未満、(1)取り組んでいないとした。専任教員所属学科別では、1.87～2.70 点の平均点であり、**国際学科**が 2.70 点と高い平均点であったのに対し、**テクニカルセンター**が 1.87 点と低い平均点であった。一方、学生所属学科別では、2.04～2.78 点の平均点であり、**国際学科**が 2.78 点、**文化コミュニケーション学科**が 2.64 点と高い平均点であったのに対し、生活環境学科が 2.04 点、**建築・環境デザイン学科**が 2.07 点と低い平均点であった。

Q3「この授業中あなた自身は、私語や居眠りをせず集中して聞いていますか？」

専任教員所属学科別では、3.67～4.56 点の平均点であり、**テクニカルセンター**が 4.56 点、**スポーツ健康学科**および**経済学科**が 4.03 点と高い平均点であったのに対し、**機械工学科**が 3.67 点、**建築・環境デザイン学科**が 3.71 点と低い平均点であった。一方、学生所属学科別では、3.72～4.13 点の平均点であり、**文化コミュニケーション学科**が 4.13 点、**国際経済学科**が 4.07 点と高い平均点であったのに対し、**機械工学科**が 3.72 点と低い平均点であった。

Q4「先生は開始時間と終了時間を守っていますか？」

専任教員所属学科別では、4.07～4.62 点の平均点であり、**教職教育センター**が 4.62 点、**高等教育センター**が 4.54 点、**電子情報通信工学科**が 4.52 点と高い平均点であったのに対し、**建築・環境デザイン学科**が 4.07 点、**機械工学科**が 4.15 点と低い平均点であった。一方、学生所属学科別では、4.17～4.47 点の平均点であり、**電子情報通信工学科**が 4.47 点と高い平均点であったのに対し、**建築・環境デザイン学科**が 4.17 点、**機械工学科**が 4.24 点と低い平均点であった。

Q5「先生は、学生とコミュニケーションを取りながら授業をしていますか？」

専任教員所属学科別では、3.53～4.47 点の平均点であり、**教職教育センター**が 4.47 点、**テクニカルセンター**が 4.38 点、**国際学科**が 4.21 点と高い平均点であったのに対し、**建築・環境デザイン学科**が 3.53 点、**国際経済学科**が 3.60 点、**機械工学科**が 3.69 点と低い平均点であった。一方、学生所属学科別では、3.47～4.19 点の平均点であり、**文化コミュニケーション学科**が 4.19 点と**国際学科**が 4.16 点と高い平均点であったのに対し、**建築・環境デザイン学科**が 3.47 点と低い平均点であった。

Q6「先生は、私語への注意など、授業を受けやすいように配慮していますか？」

専任教員所属学科別では、3.79～4.32 点の平均点であり、**国際学科**が 4.32 点、**教職教育センター**が 4.26 点と高い平均点であったのに対し、**建築・環境デザイン学科**が 3.79 点、**機械工学科**が 3.85 点と低い平均点であった。一方、学生所属学科別では、3.80～4.33 点の平均点であり、**文化コミュニケーション学科**が 4.33 点、**国際学科**が 4.23 点、**交通機械工学科**が 4.21 点と高い平均点であったのに対し、**建築・環境デザイン学科**が 3.80 点と低い平均点であった。

Q7「先生の説明は聞き取りやすいですか？」

専任教員所属学科別では、3.69～4.64 点の平均点であり、**テクニカルセンター**が 4.64 点、**教職教育センター**が 4.34 点と高い平均点であったのに対し、**建築・環境デザイン学科**が 3.69 点、**機械工学科**が 3.76 点と低い平均点であった。一方、学生所属学科別では、3.69～4.32 点の平均点であり、**文化コミュニケ**

ーション学科が 4.32 点、生活環境学科が 4.27 点、国際学科および国際経済学科が 4.22 点と高い平均点であったのに対し、建築・環境デザイン学科が 3.69 点、機械工学科が 3.84 点と低い平均点であった。

Q8「板書やプロジェクターの表示は見やすいですか？」

専任教員所属学科別では、3.66～4.25 点の平均点であり、教職教育センターが 4.25 点と高い平均点であったのに対し、情報システム学科が 3.66 点、機械工学科が 3.72 点と低い平均点であった。一方、学生所属学科別では、3.70～4.23 点の平均点であり、文化コミュニケーション学科が 4.23 点、国際学科が 4.14 点と高い平均点であったのに対し、建築・環境デザイン学科が 3.70 点、機械工学科 3.78 点と低い平均点であった。

Q9「授業の速さは適切ですか？」

この質問項目に対しての回答は、(5)速い、(4)やや速い、(3)適切、(2)やや遅い、(1)遅いとした。専任教員所属学科別では、3.33～3.66 点の平均点であった。学生所属学科別では、3.29～3.61 点の平均点であり、いずれの学科もおおよそ 50%以上の学生が「適切」と回答し、おおよそ 40%の学生が「速い」「やや速い」を回答した。いずれの学科も「やや遅い」「遅い」を回答したのは 5%以下であった。

Q10「テキストや配付資料は、内容の理解に効果的ですか？」

専任教員所属学科別では、3.59～4.12 点の平均点であり、国際学科およびスポーツ健康学科が 4.12 点、教職教育センターが 4.11 点と高い平均点であったのに対し、建築・環境デザイン学科が 3.59 点と低い平均点であった。一方、学生所属学科別では、3.63～4.25 点の平均点であり、文化コミュニケーション学科が 4.25 点、生活環境学科が 4.17 点、経済学部(1, 2 年)が 4.11 点と高い平均点であったのに対し、建築・環境デザイン学科が 3.63 点、情報システム学科が 3.81 点と低い平均点であった。

Q11「授業の内容はシラバス通りに進められていますか？」

専任教員所属学科別では、3.75～4.23 点の平均点であり、国際学科が 4.23 点、教職教育センターが 4.22 点と高い平均点であったのに対し、建築・環境デザイン学科が 3.75 点と低い平均点であった。一方、学生所属学科別では、3.74～4.32 点の平均点であり、文化コミュニケーション学科が 4.32 点、生活環境学科が 4.24 点、経済学部(1, 2 年)が 4.21 点と高い平均点であったのに対し、建築・環境デザイン学科が 3.74 点、環境理工学科が 3.92 点と低い平均点であった。

Q12「この授業の成績評価の方法や基準が明らかにされていますか？」

専任教員所属学科別では、3.82～4.36 点の平均点であり、教職教育センターが 4.36 点、経済学科が 4.33 点と高い平均点であったのに対し、建築・環境デザイン学科が 3.82 点と低い平均点であった。一方、学生所属学科別では、3.89～4.38 点の平均点であり、生活環境学科が 4.38 点、文化コミュニケーション学科が 4.35 点、経済学部(1, 2 年)が 4.31 点と高い平均点であったのに対し、建築・環境デザイン学科が 3.89 点、都市創造工学科が 4.07 点と低い平均点であった。

Q13「この授業にとってこの教室の設備や器具などは十分ですか？」

専任教員所属学科別では、3.90～4.37 点の平均点であり、教職教育センターが 4.37 点、国際学科が 4.34 点と高い平均点であったのに対し、建築・環境デザイン学科が 3.90 点、情報システム学科が 3.98 点と低い平均点であった。一方、学生所属学科別では、3.91～4.29 点の平均点であり、文化コミュニケーション学科が 4.29 点、国際学科が 4.28 点と高い平均点であったのに対し、建築・環境デザイン学科が 3.91 点、情報システム学科が 4.00 点と低い平均点であった。

Q14「この授業は総合的に見て満足できる授業ですか？」

専任教員所属学科別では、3.74～4.34 点の平均点であり、教職教育センターが 4.34 点、経済学科が 4.24 点と高い平均点であったのに対し、建築・環境デザイン学科が 3.74 点、機械工学科が 3.82 点と低い平均点であった。一方、学生所属学科別では、3.74～4.29 点の平均点であり、文化コミュニケーション学科

が 4.29 点、生活環境学科が 4.20 点と高い平均点であったのに対し、建築・環境デザイン学科が 3.74 点、機械工学科が 3.89 点と低い平均点であった。